

市民との対話事業 **市長とふれあいトーク**

実施日時	平成25年12月12日(木) (13:30~14:30)		
実施場所	伊勢平治公民館	参加人数	30人
参加対象	伊友老人クラブ・伊友集落		
懇談内容	<p>1. 発言者 JR放水路に架かっている橋が老朽化している。JRの環境共生策の一環で橋を架け替えることができないか。</p> <p>市長 すべてJRにやってもらうというのは難しい。我々としてもやる事があると思っている。考えながら折り合いを付けていきたい。</p> <p>2. 発言者 老人クラブで、長年「月見ヶ原公園」の維持管理をしているが、いくつかお願いがある。</p> <p>①子どもの遊具が少なくなった。いくつかでいいので設置できないか。 ②ため池の周囲が鉄パイプにロープを張っただけになっている。安全な柵を設置できないか。 ③公園維持管理を委託されているが、シルバー人材センターから各会員個人の口座にお金が振り込まれ、それを引き出して老人クラブの会計に入れている。老人クラブの会計へ直接振り込むことができないか。</p> <p>市長 ここまで地域で大事にされている公園は稀であり、ありがたいこと。例えば、地域自治組織のパワーアップ事業が活用できないかなど、さらに良くするための事を考えたい。シルバー人材センターからの委託の形式については検討してみる。</p> <p>3. 発言者 除雪体制は整ったが、流雪溝の普及が遅れている。何とかならないか。</p> <p>市長 川西は水源がある。あとは水路だと思う。川西地域は公共投資が進んでおり、次は流雪溝などの整備だと思っている。</p> <p>4. 発言者 ・県から川西高校はなくする方向性が示されたが、見通しは。</p> <p>市長 川西高校には、平成22年度からふれあいの丘分校の高等部が併設されているが、特別支援の対象となる児童数はこの5年で3倍ほどに増加しており、今後、高等部のニーズが高くなる。一方で、少子化に向けた県の考</p>		

え方も理解できる。近々、川西高校OB会を中心に意見を集約すると聞いている。その内容もお聞きしたうえで対応を考えたい。

5. 発言者

伊友でも、都会へ出ていった若者が帰ってこない。景気や時代の変化があることは分かっているが、やはり親としては子供に地元に来てもらいたいという思いがある。若い世代が少なくなることは、少子高齢化にもつながると思うが市長の考えは。

市長

30歳代ぐらいだと十日町に戻りたいという人も多い。戻りたい人が戻れるようにすることが大事。市も、500人体制ができしだい毎年15人から20人の間で採用していく。何ととっても、地元企業の経営者が自ら育ったまちのために投資することを期待している。そのためにも、市も企業支援を行っている。また、移住促進のための新制度も創設して、若者の流入を図っていきたい。